

四條畷市総合教育会議（平成28年度第4回）
会議録

四 條 畷 市

1 平成29年3月1日 午後4時 四條畷市役所本館委員会室において、四條畷市総合教育会議を開催する。

2 出席者

市長	東 修平
教育長	森田政己
教育委員	大村民子
教育委員	原 知 雅
教育委員	吉田知子

3 事務局出席者

理事	開 康 成
政策企画部長	坂田慶一
都市整備部長	吐田昭治郎
教育部長心得	西口 文敏
兼教育環境整備室長兼課長	
調整監	藤岡靖幸
教育総務課長	阪本律子
学校教育課長	芝田孝人
教育部教育環境整備室上席主幹兼	河上弘子
学校教育人権教育・教科指導担当課長	
教育環境整備室上席主幹	谷口 隆史
企画調整課長代理	板谷ひと美

4 会議録作成者

企画調整課	板谷ひと美
-------	-------

5 案件

(1) 今後の教育行政について

<p>政策企画部長</p>	<p>それでは、定刻となりましたので、平成28年度第4回四條畷市総合教育会議を開催させていただきます。</p> <p>なお、本日、山本教育長職務代理者につきましては、所用のため欠席されております。</p> <p>本日は、去る1月25日の第3回会議を経て、今後の教育行政について、市長と教育委員と相互理解を行うため、お集まりいただきました。</p> <p>また、本日は、今後の広報誌掲載等のため、秘書広報課の職員が写真を撮りますのでご了承ください。</p> <p>はじめに、私から、第3回総合教育会議で共通理解された事項につきまして、2月号広報の掲載記事で再確認させていただきます。</p> <p>4点あります。</p> <p>まず1点目、まちづくり長期計画に示す公共施設の新設を目的とした、四條畷小学校の廃校は行わないことを念頭に、南中学校、南小学校、東小学校のあり方は、これまで積み上げてきた議論を尊重しつつ、今後さらに市民の皆さまの意見を伺ったうえで、議会との議論を踏まえ、市長部局、教育委員会で決定。</p> <p>2点目、今後、進めていくにあたっては、防災的視点に立った安全性と、再編に伴う子どもたちの心的な負担を重要視し、早期の解決を意識しつつも将来を見据えた環境整備をめざし検討。</p> <p>3点目、本市が抱える教育環境への課題（校区のねじれ、校舎の老朽化、小規模校化）を再確認のうえ、より良い教育環境に向けた取組みを推進。</p> <p>4点目、四條畷中学校、西中学校の大規模改修については、いずれにせよ老朽化への対応は必要なこと及び地域活性化策の展開とより良い教育環境の構築により人口増加をめざすため、予定どおりに実施、以上です。</p> <p>続きまして、市長から、本日検討すべき事項等を含めまして、挨拶を申し上げます。</p>
<p>市長</p>	<p>本日はお忙しいなか、貴重なお時間を頂戴し、総合教育会議を開催させていただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>今、事務局から説明がありましたとおり、1月25日から一ヶ月と数日が経ったなか、教育環境整備計画の二段階に分かれている部分、平成30年度部分と平成32年度部分と認識しておりますが、子どもたちの心的負担を重んじ、このまま何も進まないという状態では宙ぶらりんになってしまうので、本日は、南中学校の部分の方</p>

<p>政策企画部長</p>	<p>向性を確認させていただきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>市長から本日の課題の提案がございました。 南中学校についての方向性でございます。 その前に、前回の総合教育会議以降の状況について、共有を図りたいと思います。 まずは、前回総合教育会議を行った、1月25日以降の動きについて、教育委員会事務局から報告をお願いします。</p>
<p>教育部長心得兼教育環境整備室長兼課長</p>	<p>1月25日以降の動きとして、2月21日午後7時、南中学校の視聴覚室で開催しました、南中校区保護者を対象とした出前講座の概要についてご報告させていただきます。</p> <p>まず、開催冒頭に、お子さん1人を含む43人の保護者の皆さまが参加されるなか、南中学校のPTA会長様より、「今回の出前講座は、市長選挙前の昨年12月に開催を設定したものであること」、「南中学校の閉校を前提とした説明事項が中心となること」の説明と挨拶がありました。</p> <p>その後、参加者から事前に頂戴したご質問に対して、現時点での考えなどを担当者から説明し、質疑応答を行いました。</p> <p>質疑の内容は大きく4項目で、1点目は南中学校の存続について、2点目は子どもたちの心的不安について、3点目は子どもの学力保障等について、4点目は転籍に伴う保護者の費用負担軽減についてです。</p> <p>1点目の、南中学校の存続是非については、前回の総合教育会議の内容に触れながら、全体には幅広いご意見をお聞きすべく、アンケート等の実施と、方針決定の際には、意見交換会を開催する予定であることなどをお答えしております。</p> <p>2点目の、子どもたちへの心的不安については、通学の遠距離化に対する交通機関や自転車等の利用の対象範囲、また、登下校時、特にクラブ帰りの安全確保のほか、南中学校の制服のまま四條畷中学校へ通うことの子どもの心的な疎外感、統合前の学校交流会の実施状況について等です。</p> <p>3点目の、子どもの学力保障については、統合後の四條畷中学校における少人数指導教室の確保について、中3での転籍に対する不安解消のため、教員間での引継ぎ徹底と教員人事の配慮などについて。</p> <p>最後に、4点目でございますが、転籍による保護者の費用負担軽</p>

<p>政策企画部長</p>	<p>減については、畷中学校への転籍に伴う制服購入費の補助制度創設のご要望など、全体を通じて、多岐にわたるご意見、ご要望をいただきました。</p> <p>なお、質疑応答を進める中で、本日の意見や質疑内容等は、市長に伝えたくて、市長、教育委員会間で議論を重ね、今後の方針を決定することと、今後の議会スケジュールを踏まえ、3月10日前後には、一定の方向性を提示させていただく予定であることをお伝えさせていただいております。</p> <p>以上、南中校区保護者を対象とした出前講座の概要報告とさせていただきます。</p> <p>教育委員会事務局から2月21日に開催した南中校区保護者対象の出前講座の報告がありました。</p> <p>次に、市長がこの間、学校視察や校長懇談、また関係者の方々と意見交換をされております。その内容についてのご報告をお願いします。</p>
<p>市長</p>	<p>事務局からありましたとおり、この一ヶ月と少しの間、動かさせていただきました。</p> <p>今、説明にあったもの以外にも、就任直後からこれまでの経緯、あるいは課題等、全てを学ばせていただくということ、たとえば、一定修正が加わった場合にどういう課題が発生するのかということの整理、その後、実際の教育現場に行く形で、各学校、全11小中学校の現在の状況、老朽化であったり、先生たちが抱えてらっしゃる部分について、校長の方々と意見交換させていただきました。本当に、プール、体育館、コンピュータ室等、全てこの目で見させていただきました。</p> <p>それと並行して、地域の方の考え方を伺いたく、関係地域の地区の区長さんであったり、育成会の方々、あるいは学校校区で見たときのPTAの代表者の方、母親代表委員会の方と意見交換を重ねていくなかで、今まで一定進んできたものを含め、皆さんの意見をとにかく聞かせていただいて、論点を整理していく。そしてそれは間接的に聞くのではなく、当該の関係者の方々から直接聞く。ただ、一方でスピードを上げていく必要もあるというところとかねかわせて、本当はもっともっと意見交換会を開催できたらよかったですけれども、現状を鑑みて、本日に至るところでございます。</p>
<p>政策企画部長</p>	<p>ありがとうございました。</p>

教育長

これからの進め方なのですが、ただいま、教育委員会事務局及び市長からのこの間の報告を受けまして、以降は、市長と教育委員との意見交換ということでお願いしたいと思っております。

私は、9月2日に就任して、これまで、前任の教育長、あるいは教育委員の考え方を受け継いだ形で教育環境整備計画を進めてまいりました。私の所信表明にも述べましたように、三つの課題、これは市長もお話いただいていると思っておりますけれども、もう一度、確認したいと思っております。

まず1点目は、校区のねじれでございます。同一小学校から同一中学校へ行けない少数の子どもたちが別の中学校へ行く、これが随分長い間行われておりました。今、本当に、段差のない小中の教育をと言われておりますし、これに関しての不登校の問題やいじめの問題等の課題を早く解決していかなければならず、私も十分理解して進めていかなければならないと考えております。

それから2点目として、校舎の老朽化でございます。確か、西中学校は昭和54年に開校したのではないかなと思うのですが、私が本市で教職に就きましてもう30年以上なるわけですけれども、そのころから現在に至るまで、中学校は全く改装したという記憶がなくここまで来ました。

その間、同僚との話の中で、朝、運動場に靄がかかっているかのように排気ガスが沈殿するような状態であったとか、あるいは、プールがその排気ガスで黒い煤のようなものが浮いていて、毎日それを処理しながらプールの指導をしなければならない状況、さらには、トイレが非常に汚いということがございまして、教員時代からこのことを訴えてきましたけれども、なかなかこの部分の工事は行われませんでした。

ここにきて、ようやくこの件につきましては、市長は、前回のときに進めていくとおっしゃっていただいたので、非常にありがたい。校舎の老朽化対策がようやく始まったというふうに思っております。

そして最後に小規模校化のことでございます。現在、ご存知のように、全ての学年が単学級であるという小学校がございまして、これが、今後、複数校になろうとしております。小規模校化を何とかして解消していかなければと思っております。

小規模校化の何が問題かといいますと、全ての学校は同じ業務を行っております。その業務を配属された教員の数で割っていくと、一人あたりの負担は、小規模校になるほど大きくなっていきます。

市長

子どもの教育に携わる先生方にとっての負担感というのは、非常に大きいものがあります。

私が教育長に就任してから願うことは、小中学校11校のなかで、小学校7校、中学校4校、どこの学校で子どもたちが勉強を受けても、卒業時には、同じ内容、同じ量の教育が受けられるという市にすることです。その点、市長の公約にもありましたように、教育のまちを訴えておられますので、本当に期待しているところでございます。

今後、教育環境整備計画が進んでいくところですが、やはり市長がこれまでとなえてきた民意を反映させるということもございまして、我々もそこを考えながら一緒に話を深めて、より良いもの、方針を早く打ち出していきたいと思っております。今回の会議では、この点を詰めていかなければならないと考えています。

ありがとうございます。

今、教育長から改めて三つの課題をご説明いただいて、その点については、私としても解決、解消していかなければならない問題だと認識させていただいております。最後に、方向性を早く指し示していかなければならないとお話いただきましたが、私も当然そうだと思います。

前回会議でお話させていただいてから、教育長とは連携を図らせていただいておりますが、学校を見たり、地域の方、PTAの方とお話しさせていただいたなかでの私の思いを、限られた時間ですので申し上げたいと思っております。

そもそも、私自身は、学校を潰す、潰さないというところではなく、まちづくり長期計画の見直しを図っていきたくて考えており、それが前回から今回の会議の開催の経緯となっております。

では、何を見直したいのかといいますと、これは前回会議でも申し述べましたが、この計画は、前提として、子どもがたくさん減少する、超少子高齢化が押し寄せていることを受け入れたうえで、理想の学校配置、まちづくりを考えていく計画だと認識しています。私は、その前提の部分を見直しさせていただきたいと考えています。

2月23日の所信表明でも申し述べましたが、若い世代がさらに転入してきて、高齢者の方々を支えていける、そして子どもたちにとっても住みよいまちにすることで、三世代が住みやすいまちを実現していく、ということを考えております。このように前提を見直したうえで、まちづくり長期計画を考えていきたいと思っております。

す。

今回、地域の方であったり、色んな方のお話を伺うなかで、強くあった意見のひとつとして、今、ただでさえ子どもの数が減っている状況で、さらに南野のエリアに学校がなくなった場合、その地域にさらに人が来なくなり、若い世代が加速度的に減ってしまうのではないかと、そしてさらに高齢化が進んでしまうのではないかと、といった危惧をもたれている方、あるいは強く懸念しているという声が多かったと認識しております。私もそう思っております。

私は、地域の方だけが思う悩みの解決、課題の調整をするだけにとどまらず、四條畷市全体がどういうまちになっていくのかを重視すべきと考えています。若い世代が入ってきて、高齢者の方を支援していけるまちをめざすのであれば、南野の地域の方がおっしゃっている、学校がなくなったら人が入ってこないというのは、私も共有できる考えだと思っております。それを踏まえると、私は南中学校をただちに廃校することはできないという思いでいます。

ただし、前回会議でも申し述べましたが、安全、防災面を考え、安心安全、並びに子どもたちの心理的負担、ここは最優先しなければならないと思っております。冒頭で申し上げたとおり、これまでの過程、検討内容を全部見させていただいた際、私として看過できない点がありました。南中学校のエリアの半分が土砂災害警戒区域になっております。ご存知の方も多いと思われそうですが、国土地理院の発表によりますと、活断層が校舎を横切る形だと示されています。

私は、ここに非常に懸念を抱いております。もし、南中学校を残すという選択肢をとった場合は、今後、畷中学校が改修される、西中学校が改修される、南中学校も当然残すなら改修しなければならないと思いますが、学校は、同時に防災の拠点でもあります。敷地の真ん中に活断層が走っていると認識していながら、学校を改修するという選択肢は、市長として安全面からとれません。

国土地理院が発表している活断層の位置は、精密調査をすればより正確な位置がわかると聞いております。まずはその活断層が、国土地理院の発表では南中学校エリアを分断する形で走っているように示されていますが、それが本当かどうかを調べるのが優先だと思っております。

そのうえで、活断層がエリアから外れていたら、校舎等の使い方を考えようと思っております。ただ、現状では、ボーリング調査に3ヵ月程度が必要だと聞いております。私も悩みました。確かに授業をしながらでもボーリング調査はできます。しかし、おそらく子

どもたちは、先生に何の調査をしているのかと聞くとと思うのです。校舎の真下に活断層が走っているかどうかを調査していると聞いた子どもの心を考えた場合、良くないと考えます。南海トラフ地震がもうすぐ起きるといふ報道を知っている子もたくさんいるでしょう。いつ地震が起きるかわからないなか、自分が学んでいる校舎の真下に活断層があるかもしれない、それがあつかないかの調査をしていると言われた時、子どもの負担は大きいと懸念しています。

今の計画ですと、平成29年度いっばいで廃校にするとなっておりますが、廃校にはしません。平成29年度いっばいで、一時的に閉校、あるいは休校という形にさせていただきたいと考えています。校舎から子どもたちがいなくなった段階で、まずは、活断層がどこにあるのかをしっかりと調べる。そして土砂災害の被害想定や、防災の措置をしっかりと確認する。そのうえで、改めて、地域の防災拠点、コミュニティスペースとしての学校のあり方を今一度考える。こういう進め方をさせていただければと思っております。そして、安全が確認されたうえで開放していく。

校舎のあり方等、地域の方や色んな方との議論を深めていくべきと思いますが、安全が確認されていない場所について議論することはできないと思っておりますので、安全が確認されたうえで次のステップに進んでいきたいと考えています。

政策企画部長

今、教育長から三つの緊急課題の話がありましたが、前回会議で啜中学校、西中学校の改修を凶るべきという点は、市長と教育委員で共有されております。現行の教育環境整備計画は、少子化の流れの中で、小規模校、単学級の解消を検討していく趣旨であり、市長のご意見は、本市の人口増を見据えたうえで、まちの活性化という視点があるべきということと思います。

これらを踏まえ、市長から、今、活断層の話があり、活断層の位置の確認が必要で、安心、安全、防災の観点を含めて詳細を調査するため、南中学校の一時閉校または休校が提案されましたが、これについてご意見をよろしく願います。

吉田委員

私は保護者の立場からこちらにこさせていただきます、今の南中学校の一時閉校、休校という言葉に対してご意見を伺いたいのですが、一時というともた戻る可能性があるというニュアンスでしょうか。

西中学校と啜中学校に合流して交流を深めていくなかで、再び開校となると、また南中学校に戻ることになると思うのですが、その

<p>市長</p>	<p>時の子どもたちの心的負担が考えられますし、保護者の方達からもそういう意見がでると思うのですが、それについていかがでしょうか。</p> <p>確かに一時閉校ということは、西中学校ないしは啜中学校に通うお子さんたちがいて、もし南中学校が再び開校となった場合に、強制的に当該エリアから戻らせるといったことは、心的負担からありえないと認識しています。</p>
<p>原委員</p>	<p>ということは、校区設定というよりも、最終的には自由に通うということもありえると。</p>
<p>市長</p>	<p>校区のあり方を市長としてこうすべき、ということは難しいのですが、南中学校は一時閉校ですので、お子さんたちが戻るということもありえます。</p> <p>戻ってこられる場合、どういう校区のあり方が良いかは、教育長と連携を図って校区のあり方を考えていければと思っていますが、一方的にこの校区はこういう状況なのにもかかわらず戻ってこい、ということはありません。</p>
<p>吉田委員</p>	<p>一時閉校の一時という言葉に、保護者としてはとても不安だと思っています。</p> <p>市長のお考えはとてもよく分かります。工事をしている間は勉強をする環境ではないし、心的負担の軽減を考えられるのはよく分かるのですが、未だあやふやさを残して進学させることへの不安が必ず出てくると思います。なので、私としてはちょっと納得がいきません。</p>
<p>市長</p>	<p>その意見は、私も当然だと思っています。不安がないというと、それは嘘になります。</p> <p>ただ、色んな課題があると考えていて、今仰ったような不安もひとつの課題であるし、防災のあり方や、子どもの数が減っているという課題も含め、全ての課題が解決するような万能の答えはないと思っています。ただ、優先順位をつけていくことはできると考えています。</p> <p>たしかに、どうなるのかという思いはありますが、私が、活断層はあるけれども、やはり南中学校は絶対に残します、でも、いつ地震があるかわからないけれど、そのまま子どもたちが勉強している</p>

	<p>横で活断層の調査をする場合と、もしかしたら南中学校に戻るかもしれないという不安はありつつも、地震といった災害があった場合の安全が確認されたら今後を進めていく、という場合の子どもたちの心的負担について、どちらが辛いかを比べるにあたって、私は先ほど申し述べた方が心的負担は重くないと考えます。</p>
吉田委員	<p>先ほどの話にもでてきた制服の補助金の件ですが、これは南中学校に今までいらっしゃった方が対象とお考えですか。</p>
市長	<p>私の話の中では、その補助金のあり方はまだ申し上げていないと思います。教育委員会事務局からの出前講座の話も踏まえ、この方向で進んでいく場合に、当然、金銭的な負担が生じる場合があります。その一例が制服だと認識していますが、これは行政としてこのように進めていくという決断があり、当然議会の皆さまとも相談したうえで、可能な限り市民の皆さまに金銭的負担がかからないよう努力させていただきたいと思います。</p>
吉田委員	<p>その場合に、啜中学校の保護者、西中学校の保護者で通うことが決まっている子どもに新しい制服を買う方がたくさんいらっしゃいますよね。それとの違いを明確にしてあげないと不満があります。そういう点も考えていただきたいと思います。</p>
市長	<p>わかりました。</p>
大村委員	<p>一時ということですよ。そうしたら、制服等は一時的にも啜中学校の制服という形になるということですか。</p>
市長	<p>一時的に同じ中学校に通うとなると、制服を統一すべきであるとか、バラバラにすべきであると私が言える立場にありません。教育委員会等、皆さまとの話し合いの中で、どちらかの見解にまとまった場合に、それに伴う予算措置は当然、議会の皆さまとも議論を交わさせていただいたうえで、私としては全力で対応していきたいと考えています。戻る可能性があってもです。</p>
吉田委員	<p>やはりボーリング調査が3ヵ月かかって、その結果でという話になると思いますが、この期間が終わったら戻るという話であれば、子どもたちに我慢しなさいということもできるということですね。 ただ、あやふやなものであれば、親も子どもたちに一人だけいや</p>

市長	<p>だと言われれば、買ってあげたくなる心理になって、そういった場合の補助は難しいと思うのですが。</p> <p>難しいとは。</p>
吉田委員	<p>戻るかもしれないのに、そこで補助を出して制服を買わせてあげるかもしれない、ということです。</p>
市長	<p>いずれにせよ、今仰ったあやふやという言葉は完全に否定できないと思います。なぜなら、どうなるかは調査しないと分からないので、あやふやを避けることはできません。</p> <p>ただ、ありえる例としては、今、活断層は、南中学校のエリアの中の大体真ん中より少し東寄りに走っているとされています。これが、調査によってど真ん中を貫いていると判明する可能性も否定できません。そういう場合に、中学校機能を完全に残せるかという結論をまだ出せません。</p> <p>それなのに、南中学校は絶対残ると威勢よく言うのは、私は違うと思っています。現時点では不確定であることを前提として、まず対応できることをする、ということ以外、今はできません。</p>
原委員	<p>その一時というと大体どれくらいの時間を考えておられますか。</p>
市長	<p>まず、来年度を一年過ごしたうえで、閉校した後に調査が即刻入ると思います。これが最短で3ヵ月かかります。ただ、この調査は活断層だけですが、いずれにせよ土砂災害警戒区域というイエローゾーンにも入っているので、この対応もみていかなければいけないと思っております。当然、もっと地域の方と同時並行的に議論をして、議会の方々とも議論させていただきながらになりますが、最短でいって二年、三年くらいをみていかなければならないと考えています。</p>
原委員	<p>子ども目線でいえば、その最後の一年に入学すると一年間だけ、最初の年だとそのまま卒業することもありますよね。一年から三年、結論が出るまでそのまま啜中学校、西中学校で卒業ということになるかもしれない、ということですね。</p>
市長	<p>吉田委員からご指摘がありましたとおり、中学校を移る心的不安といつ地震が起こるか分からない中で、南中学校で学び続ける負担</p>

原委員	<p>を両秤ではかった場合に、私としては、それならば、しっかり活断層の場所を特定すべきだと決断した次第です。</p> <p>三年という期間は中学校でしたら一巡してしまいます。そうすると、南中学校は通っていない訳ですから、一年生から通っていた学校に通いたい子どもが増える可能性があるかと。</p>
市長	<p>当然、あると思います。</p>
原委員	<p>となると、南中学校に戻るといった場合に、どれだけの子どもが戻ってくるだろうかと考えてしまうのですよね。そのため、難しいかなと私の中で思っていました。</p>
市長	<p>当然、仰っていただいたとおり、今、南中学校の生徒の数をみると2クラスですが、これはもはや40人の2クラスではなくて、40人よりも数の少ない1クラスになっています。</p> <p>吉田委員が仰ったのは、中1からたとえば、西中学校に通ったとします。中学3年に至るどこかで南中学校に戻った場合の話をされているという理解で良いでしょうか。</p> <p>それは、その子にとっては過渡期なので、そのまま上がってそこで卒業する、あるいは、それよりも地元の家に近いところに戻りたいという思いがあれば、それは選択する権利もあるのではないかと思います。当然、切り替わった瞬間にすぐ物事が変わることはなく、移行期間、猶予期間があると思っております。</p>
吉田委員	<p>以前、小学校の統廃合があったときに、6年間でやっと落ち着いたと聞いたことがあります。やっと落ち着いた3年間でまた変わるというところに不安を考えてしまいます。</p>
市長	<p>当然、その議論はあると思います。そのなかでも、戻る、戻らないの議論は、地域の人とできると思っています。もちろん、私もそうですし、教育委員会の皆さまもそうです。</p> <p>一旦閉校になったところで、学校でなくても、たとえば、子育てを支援していくようなスペースであったり、若い世代が入ってこないというのが心配なのであれば、そういった施設の活用もあるし、高齢者の方と若い世代が交流できるようなスペースに変えていくことも選択肢の一つだと思います。これは、我々から提案するというより、地域の人と話し合っ、経過を経たうえでどういうあり方</p>

<p>教育長</p>	<p>かを考えていけるのもひとつのメリットだと思います。</p> <p>議論の流れが、一時の部分になっていると思うのですが、先ほども市長は、教育環境整備計画が、いわゆる、超少子高齢化を受け入れた形での計画ではないと仰いました。</p> <p>教育委員会の今までの考え方は、やはり小規模校化という現実があって、これを何とかしなければならないという思いがあったのですが、市長は発想というか、入り口のところが少し違うということを私は理解しました。</p> <p>私は、子どもたちにとってより良い教育環境、あるいは四條畷の教育は素晴らしいと思ってもらうために、今、ハード面についてとやかく言われておりますが、この間も職務代理者から話があったように、ソフト面でもこれまで学力向上3ヶ年計画という形で教育環境の充実を進めてまいりました。確かにその効果というのは、右肩上がりに上がっているわけです。そして、それだけではなく、子どもの貧困対策や、課題を抱えた子どもたちに早期にどう対応したら良いかについて、我々は研究、実践を進めてきたわけです。</p> <p>我々としても、ソフト部分での整備も実現していくならば、市長と話を詰めて方針を固め、さらに考えの入り口が違った点をまとめたうえで、そのまとまったものを今度は市長と一緒に私も地域に出向いて話をしたいと思っています。</p> <p>これがひとつです。</p> <p>もう一点が、吉田委員が仰るように、私も、一時閉校の一時というのが、子どもたちの不安や、保護者の疑問につながっていくと思うのです。</p> <p>前回もお話したと思うのですが、この我々の進むべき道によって、子どもたちに心的ケアが必要にならないように教育委員会でも考えていかなければならないし、それ以外の部分では、予算が伴って市長にお願いしなければならないということも出てくると思うのです。そういったことも整理しながら話を詰めたいたいと思っています。</p>
<p>市長</p>	<p>私としても、従前から、教育をしっかりして、もっとまちが活性化することを重要視していると言いつけております。</p> <p>今、仰ったとおり、今回見直したいというのは、元々積み上げられてきた議論をひっくり返したいという意図では全くなくて、ソフト面、ハード面に関して、この四條畷の教育環境レベルを上げていきたいという思いに加えて、緊急課題といわれる、老朽化等の問</p>

<p>原委員</p>	<p>題を解決していきたいという思いは同じなのです。入り口のビジョンが変わることで若干の修正となるため、決して、これまで積み重なってきた議論を否定しているものではないと認識しています。</p> <p>2つ目ですが、当然何かを進めていくうえでは、対応策が必要になります。今回の場合においては、私は安全が最優先、最重要としたうえで、それに伴う一連の予算措置は可能な限り議会の皆さまと相談、あるいは議論させていただきながら、進めていきたいと思っています。</p> <p>話が飛びますけれど、私は保護者ではなくて、幼児教育の立場で関わらせていただいています。</p> <p>ここ1,2年、子ども政策関連の事業を、教育委員会と一緒にあって、公であれ民間であれ、保、幼、小、認定こども園全部含めて、みんなですり合わせして、学校の方に向かって連携を頑張っています。</p> <p>小学校がこのあと中学校と連携した活動でも、かかわってくるのでしょうか。市長は考えていらっしゃるのでしょうか。</p>
<p>市長</p>	<p>小学校の児童と中学校の生徒、ですか。</p>
<p>原委員</p>	<p>保幼小です。</p>
<p>市長</p>	<p>所信表明でも申し述べましたが、就学前の子どもにここで生まれ育って良かったと思ってもらえるような教育環境、子どもたちの環境整備、就学前教育に注力することは変わらないと思っています。</p> <p>とにかく、国の議論を見ている、大学といった高等教育に力を割いていますが、私としては、やはり地方自治体、基礎自治体としては、就学前についてしっかりやっていきながら小学校と連携していきたいと思っています。</p>
<p>吉田委員</p>	<p>市長はスピーディに地域の方、自治会やPTAの方と話をされていますが、そこに属していない方たちについては、以前、紙媒体で聞かれるということでしたが、何か手法でお考えがあるのでしょうか。</p>
<p>市長</p>	<p>これは、当然、紙媒体も含む幅広い手法で伺いたいと前回会議でも述べました。来年度は一定、教育環境整備計画が進んでしまうので、速度が求められることと秤にかけたうえで、南中学校の方針に</p>

吉田委員	<p>については、可能な限り多くの人たちの意見を集約する手法と、できる限り早くするというを両立していくために今の状態でやらせていただいています。</p> <p>小学校、暁小、東小、南小の現計画については、仰っていただいたようなアンケート等含めて、現時点では5,000世帯、6世代にわけて1世代1,000世帯ずつ、議会の皆さまと議論しながら幅広い層から意見を伺いたいと思っています。</p>
市長	<p>それはすぐでしょうか。</p>
大村委員	<p>ただちに取りかかりたいと思います。</p> <p>小学校も取り組んでいきたいと仰っていただいています、全小中学校の校舎を見ていただいて、学校長とも話をさせていただいたことで、老朽化も気になると仰ってくださいしています。</p> <p>私は教師生活で、四條暁市では3校、他市の5校、他市のうち1校が廃校になりました。四條暁市での勤務校は、3校全てが廃校の対象になりました。3校とも数年勤務して、その学校の老朽箇所、欠点も一般の方よりは把握できています。</p> <p>市長がどのように小学校の計画について見直されるのか。老朽化の状況も見ていただいており、所信表明も聞かせていただいたり読ませていただいているなか、信頼できるというか、今日、教育委員会が進めてきたことも理解できるというお話を伺ったので、南中学校は決めない、小学校についてもこれからだ、と仰ったことは、この先をどう見ていいのか。わたしはある程度の方角を、先を見たいという思いがあるのですが、そのあたりはいかがですか。</p>
市長	<p>確かに、お話しさせていただいた内容だけで判断いただくと、どこに向いているのかというように聞こえるかもしれませんが、しかし、私としては方向性はクリアであると思っています、魅力ある学校というのは、人口増、特に若い世代が増えるような施策を推進するにあたって、一定程度寄与すると考えています。三つの緊急課題を解消しなければならないというのもそこに一致している。</p> <p>南中学校の方向が決まらなと仰っていますが、私としては、現時点でやらなければいけないことを決めたと考えています。</p>
大村委員	<p>南中学校については一定の方角を仰ったと。</p>

<p>市長</p>	<p>小学校部分については、三つの課題の中にある、特に小規模校であることが影響すると思っています。東小学校、南小学校の方のお話を聞かせていただいたなか、運営状況が厳しいと言われていきます。一人の先生がたくさんの役割を担う現状で、もっといい教育を提供したいとなったときに、研修もできないし、病気等になったときは誰が教えるのか、という状況になる。もちろん議論のうえではありますが、全部が全部、残るのは厳しい。</p> <p>学校の数が多ければ多いほど、補修にお金がかかります。本来であれば、教育のソフト的なことに使いたい。パソコンでも各小学校20台ずつ配備されていますが、全て使えていない。コンピュータ室が使えておらず、置いてあるだけになっています。これから、教育のあり方を見直す時にそれでいいのか。この現状を踏まえ、ある程度の適正な規模に向かっていくというのは必要な方向だと考えます。</p> <p>前回会議の段階で述べさせていただいたのは、四條畷小学校は市の中央に位置していて、ここは学校のあるべき場所として相応しいという思い。この2点が今のところの方向であり、これを踏まえたいうで幅広く議論を聞いたうで結論を出していきたいと考えます。</p>
<p>教育長</p>	<p>教育環境整備計画を進めていくなかで、根本にあるのは、よりよい環境を子どもたちに提供していくことです。</p> <p>私が所信表明で述べたのは、環境は人を変えるということ、この信念のもとに学校づくりをやってきました。これを市民それぞれの意見のなかでも後押ししてもらえらるなら、修正もありだと思っています。今後、市長と意見交換しながら、また、教育委員の皆さまとも意見を重ねながら考えていければと思っています。</p>
<p>市長</p>	<p>教育長が仰ったなかで、なるべく多くの意見を聞くということがありましたが、全ての人には聞けないため、選択させていただくことになるとは思いますが、今後は、主役である子どもたちと私が意見交換を重ねていきたいと思っています。</p> <p>さらに吉田委員からご指摘があった制服の問題は、制服以外にも今回のことで予算措置が伴い得るものがたくさんあると思います。通学で遠くなってしまう地域があります。一例として、出前講座の報告では、自転車通学はどうなるのか、その場合の保険料やヘルメットはどうなるのか。そういったことも予算が絡んでくる。いずれにせよ、教育委員会や市民の皆さまと議論させていただいたう</p>

大村委員	<p>で、私ができる限りのことは努力させていただきたいし、議会の皆さまとも議論したいと思っています。</p> <p>審議会のなかでは自転車通学は考えないという形になっていました。</p>
市長	<p>その経過やその結論が出てきた経緯も伺っています。</p> <p>畷中学校、忍小学校は、清瀧方面から上がっていく坂道が、加害者たりうる坂道となっていると。私はこれにすべきだというつもりはないのですが、たとえば、そこは自転車を手で押して上がらなければならないというルールを設ければ加害者になることはない。それを見張るための安全管理の方を置くといった予算措置がともなうものは、私としてはできる限り行いたいと思っています。</p>
政策企画部長	<p>ご意見をいただいているところですが、現行の教育環境整備計画と、今、市長が言われている意見との関連性、関係はどのようにお考えか、この場で共有していただければと思います。</p>
市長	<p>現行の教育環境整備計画と私の考えですか。</p>
政策企画部長	<p>さきほどの議論の中で、教育環境における三つの緊急課題の解消を第一に、人口増加を含めたまちの活性化の視点を入れた教育環境整備計画の修正を行うことと理解をしていますが。</p>
市長	<p>向かっていきたい先は、三つの緊急課題解決です。まちづくり長期計画の前提を少し変更させていただく影響で、教育環境整備計画にも修正が加わっていくという認識でおります。</p>
政策企画部長	<p>一時閉校という考え方が出てきましたが、子どもたちの心的ケアをどうするのか。また、自転車通学の話など色々な課題があると思いますが、他に何か課題等ありましたら、意見交換していただけたらと思います。</p>
教育長	<p>子どもたちに教育できちんと教えていかなければならないものに、郷土愛があると思います。郷土愛のベースでは、やはり母校、学校愛が大事だと思っています。市長とも何度かお話しさせていただいて、四條畷高校にこよなく思いがあり、母校愛、誇りを持っておられるというのを強く感じます。四條畷の子どもたちが、それぞ</p>

	<p>れの小学校、中学校で学んだことに誇りを持って育ててもらいたい。そのため、一時ということにさまざまな意見が出ると思っています。</p> <p>市長のお考えもわかります。安心を考えた際に、活断層については、教育委員会では工事前にきちんと対応するとのことですが、市長はよりしっかり確定させて安全を確保して進めていきたいと仰っているので、理解できるとしています。</p> <p>そこで、活断層の場所がはっきりわかった場合、もう一度市民の方々から意見を聞いたうえで、開校というのも視野に入るとしています。その時に、南中学校区でありながら、今年度他行へ入学した36人の子どもたちに誇りを持って卒業してもらおうための猶予、3年ぐらいと仰っていましたが、これは小学校から波及していくと思っています。</p> <p>今日は結論が出ませんので、一時については、市長と教育委員会で煮詰めて、そのあり方を考えていかなければならないと思います。</p>
市長	<p>仰っていただいたとおりです。この場は意思疎通を図らせていただくためであり、上がってきた課題を1つひとつ潰していく場ではありません。ただ、私の方針を踏まえたうえで出てくる課題については、今後、協議を進めさせていただきたいと思っています。</p> <p>さらにひとつ付け加えさせていただきたいのが、現行の教育環境整備計画で啜中学校に通学することとなっている地域が非常に遠いということ、この声は、先日の南中学校での出前講座でもたくさん伺っています。地域の方との意見交換でも、西中学校の方が近いのになぜ啜中学校なのかという意見を伺っています。</p> <p>私も以前インドで働いていたときに、資料等を調べていくなかで、なぜこの地域は西中学校ではないのかと思ったことがあります。私が校区割について言うことはできませんが、校区のねじれは、それを重視した結果、通学距離が短くなって安全になっていくことも考えられるため、しっかり柔軟に議論すべきだと思っています。校区のねじれの解消が絶対大事だということは違うと思っています。通学面での安心、安全や改善策を練るにあたって予算的措置が伴うのであれば、議会の皆さまもしっかり議論して考えさせていただければと思っています。</p>
政策企画部長	<p>ありがとうございました。それでは市長と教育委員との意見交換を受けまして、今後の方針を協議させていただきたいと思います。</p>

	<p>まず1点目、教育環境における三つの緊急課題解消を第一に、本市の人口推移を見据えて、人口増加策を含むまちの活性化の視点での教育環境整備計画を修正する。</p> <p>2点目、南中学校については、土砂災害警戒区域及び活断層が敷地内にあることが想定されていることから、防災の観点から生徒の安心、安全が確保、担保されるまで一時閉校とする。</p> <p>3点目、一時閉校による課題については、引き続き教育委員会の考え方も含めて整理のうえ、継続して検討を行う。</p> <p>4点目、今後の小学校のあり方については、アンケート手法による幅広い年齢層の意見を集約のうえ、検討を行う。</p> <p>これが本日の共通認識かと思いますがいかがでしょうか。</p>
市長	<p>吉田委員からご指摘いただいた、予算的措置について柔軟に対応する、というのを加えていただければと思います。</p>
大村委員	<p>市長は閉校または休校と仰っていましたが。</p>
市長	<p>私は、言葉のニュアンスとして、安全の確保、その後に再オープンという形もあり得るし、場所によっては他の活用方法もあり得るので、閉校、休校という使い方もあると思っていますが、今回は、一旦閉じる、という。</p>
政策企画部長	<p>方針を受けまして、今後の情報提供の方法についてご議論いただきたいと思います。前回会議は、教育総合会議の要旨を広報誌に掲載するとともに市ホームページに議事録をアップさせていただきました。今後の情報提供についてはいかがでしょうか。</p>
教育長	<p>前は市長の顔写真も掲載され、その下に総合教育会議の結果が載りましたので、多くの市民に知っていただけるので、今回も広報誌のほうにも、と思っております。</p>
政策企画部	<p>政策企画部で紙面の調整をさせていただきます。よろしければより市民の方に理解いただくため、前回会議の議論を再掲載のうえ、今回分も掲載させていただきたいと思いますがいかがでしょうか。</p>
教育長	<p>さきほど、政策企画部長が確認した共通認識と、市長が仰った点も追加されるということですのでよろしいでしょうか。</p>

市長	それでよいと思います。
政策企画部長	保護者の方々への説明の手順はいかがでしょうか。特に南中学校の保護者の方への説明を市長自ら説明に上がるということによろしいでしょうか。
市長	私は、所信表明でも述べさせていただきましたが、理解を求める場合は、当然、自分で説明させていただきたい。子どもたちもそうですが、保護者の方にも一定理解を求めたいと思っておりますがいかがでしょうか。
教育長	学校と調整させていただきたいと思います。
政策企画部長	<p>情報提供の方法は、広報誌とホームページに前回の分も掲載させていただくということと、南中学校の保護者、生徒に対しては、市長自らが説明するということによろしいでしょうか。</p> <p>((異議なし))</p>
政策企画部長	<p>なお、一時閉校に係る課題については、次回の総合教育会議において再検討ということによろしいでしょうか。</p> <p>((異議なし))</p>
政策企画部長	<p>これをもって第4回総合教育会議を閉会したいと思います。本日はありがとうございました。</p>